

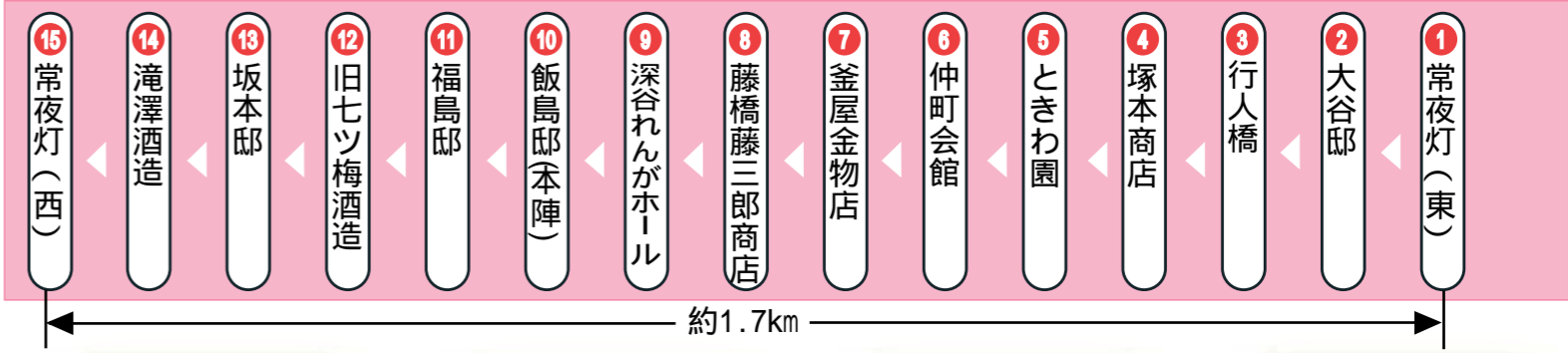
歴史散策マップ

中山道を歩く

7カペディア
Layer MAP



江戸時代に整備された中山道の宿場町として栄えてきた深谷市の中心市街地。そこは、江戸・明治・大正・昭和のレトロな町並みが残っている、散策が楽しいエリアです。



7 釜屋金物店

明治15年建築の堂々とした瓦屋根がすばらしい。奥には江戸期の蔵などがあります。

6 仲町会館

大正時代の趣をそのまました木造建築。現在も仲町の寄合いや祭りの稽古などに現役で使われています。

5 ときわ園

店の裏に廻ると、明治時代初期に建てられた、土蔵の周囲にレンガを積み上げて作った珍しい建物が！

4 塚本商店

伝統的な町屋建築に、防火用のレンガ積みの「うだつ」が付いた珍しい建物。大正元年(1912)築。

3 行人橋

昔、行人(ぎょうにん)という僧がこの橋が流されるのを嘆いて橋を架けたので、「行人橋」と呼ばれるようになったんよ。

2 大谷邸 国登録有形文化財

昭和恐慌時、時の町長大谷藤豊氏が「お助け普請」で建てた。ユースタイル・シュティル・スタイルの洋館が見事です。

1 常夜灯(東)

宿場の出入り口の目印と街灯の役目を果たしました。富士講の人たちによって明治初頭建立。高さ約4mと中山道で最大級！

江戸時代の町並み
中山道深谷宿の両側には短冊状に家の区画ができていました。

歴史のみち景観モデル地区
深谷宿地区(稲荷町～田所町の中山道沿線)は、2011年、埼玉県の歴史的な景観資源を活用したまちづくりを目指すモデル地区として選定されました。

春はになると唐沢堤の桜並木が美事です

深谷駅
東京駅が深谷のレンガを使っていることからレトロ調の深谷駅がつけられました。

中山道と深谷宿

深谷宿は、現在の稲荷町と田所町ある2基の常夜灯にはさまれた約1.7kmの区間を指します。江戸を出立して2晩目の宿を求める人で大いに栄えたといわれ、天保14年(1843)には、525軒、うち本陣1軒、脇本陣4軒、旅籠80軒で、人口は1,28人でした。



煉瓦の街

明治20年(1887)に、深谷市に日本で最初の機械式煉瓦製造工場、日本煉瓦製造株式会社が作られました。煉瓦の建物が多いのはそのためです。



16 常夜灯 市指定文化財

高さ約4mと中山道で最大級。江戸時代中頃から盛んになった富士講によって天保11年(1840)建立。講の印が透かし彫りになっています。

15 滝澤酒造

文久3年(1863年)創業の蔵元。町屋、建築、土蔵、レンガ蔵がレトロ感たっぷり。雄大なレンガ煙突が見事！

14 坂本邸

市内でも最大級の町屋建築。7月に行われる深谷祭りには代々家に伝わる山車のミニチュアが飾られ、格子越しに見ることができる。

13 旧七ツ梅酒造

「七ツ梅」は田中藤左衛門商店の清酒の銘柄。廃業後は保存・再利用が図られ映画の街の拠点となっています。

12 福島邸

昭大正10年頃建造のこんにやく原料倉庫兼製造工場、深谷産レンガのアーチ積みの窓、入り口が優美で美しい。

11 飯島邸(本陣)

宝暦2年(1752)～明治3年(1871)まで本陣職を務めた家。事務所裏手に市指定建造物の上段の間などが保存されています。

10 小林商店

大正元年建造のレンガ倉庫と、隣接する昭和2年建造の木造3階建洋館と並んだたたずまいは大正時代の深谷の姿を彷彿とさせます。

9 深谷れんがホール

昭和8年(1933)に深谷信用組合倉庫の解体レンガを使って建築。現在はイベントなどに利用されています